



Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 102 号

-
- | | |
|---|-----------------------------------|
| ・発行日／2018年07月31日 | ・発行所／クリスチャンパートナーズ |
| ・事務局／〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2-7-63-111 竹澤三佳子方 | ・Tel／Fax 054-283-1721 |
| ・郵便振替口座／00150-0-134994 | ・e-mail／sunflower818@hw.tnc.ne.jp |
| | ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/ |
-

ラオスとミャンマーを訪問して (その2)

理事長 木ノ内一雄

前回の「通信」101号で、ラオスとミャンマーを訪問してきたことを書かせていただきましたが、今回はそれに続いて民族、部族間の問題にも少し触れたいと思います。前回にも書きましたが、両国とも美しい国で、とくに農村の風景は日本に良く似ていました。多民族国家で山岳部には多くの少数民族がいます。訪問した孤児の施設にも部族間の抗争で両親を失った子が多くいました。また、中国と国境を接しているため、北に行くほど中国人が多くなります。国境の管理は今では厳格化されているものと思います。しかし、部族間の抗争もまた、中国と国境を接しているからと聞かされました。孤児の中にも中国人はいます。海外からの援助を受け上級学校に進むのは中国人の子が多く、その中でも客家の子が目立ちました。

今回、旅行に同行した人たちもまた客家で、マレーシア、シンガポール、香港の人たちでした。その中で、マレーシアから来た人は自分は中国人であることを誇りに思っていたが、中国の両親の郷里を訪れた時、人々があまりに利己的で拝金主義なのに驚いたと語ってくれました。そしてマレーシアでも同胞の多くが素朴な現地の人をだまして、不正に利益を得ていることに心を痛めていました。同じことはラオス、ミャンマーにいる中国系の人たちにも言えるのではないかと思います。村の中の板壁には中国語が殴り書きされているのを多く見かけ、彼らの帰属意識はどちらの国にあるのかと思わされました。

ミャンマーではロヒンギャのことが問題となっており、そのことも話題になりました。ロヒンギャのことを好意的に見ている人は皆無でした。日本では人権問題とされ、欧米でも国連でも圧倒的に被害者はロヒンギャであり、アウンサンスーチー氏はこの問題を放置しているとして批判的になっていましたが、こちらでは彼女のことを悪く言う人はいませんでした。このままでは人種、文化、宗教の違うロヒンギャの人たちとうまくやっていけるとは思えませんでした。

両国とも、これからの若い国です。国づくりには国民が民族、部族を超えて一体となった清廉な意志と覚悟がないと、隣接する大国に政治的、経済的な主権を奪われることになりかねません。一人でも多くの子どもたちに進学の手助けをすることは、私たち日本人の責務だと思います。将来の発展の大きな可能性と共に大きな問題を抱えている両国のために、覚えて祈りたいと思います。

ガーナ活動 2017 年度年次報告 アモス・バンマリグ

抄訳 理事 木ノ内和美

今年度も多くの実を結ぶことができました。すでに関わりを持った地域に力を注ぎ、既存の教会を訪問伝道などで支援しました。多くの伝道者を得て、婦人たち、青年・壮年男子をキリストに導きました。子どもへの伝道・指導者養成・伝道者養成・家畜飼育の四分野で活動ができ、神に感謝するとともに、支援者の皆様の祈りと支援にお礼申し上げます。

長年牧師として働きを共にしてきた父が亡くなりましたが、その際、理事の皆様から温かい励ましと祈りの言葉をいただき、困難を乗り越えることができ、感謝いたします。

(アモス師の父上は昨年9月30日に88歳で天に召され、ヤマのバイブルバプテスト教会で葬儀が行われました。)

*伝道活動：各地域の伝道者はよき働きを継続できました。

青年たちへの伝道・開拓伝道者の育成・協力者養成
家族への家畜飼育技術の指導や家庭での教育など

*養護施設・学校運営：子どもたちへの教育・健康・衣食住の必要はまだ充分ではありません。支援者の協力を得て、将来の指導者養成が望まれます。

*山羊育成プロジェクト：目覚ましい進展が見られました。

養護施設でも子どもたちが飼育を開始、頭数増加にさらなる支援が望まれます。

*農業：農夫に訓練をして、種子改良・有機栽培などを指導しましたが、雨が降らず成果は上がりませんでした。

*飲料水衛生プロジェクト：やはり降雨量が少なく、深刻な水不足でした。

*青少年伝道：ヤマ近郊で、サッカーチームを組織し、トーナメントを開催。試合観戦者にも伝道しました。

《いただいた支援金は、山羊の買い増し、養護施設の子どもたちの食費、職員教育、交通費に用いられました。》

2017年度を通して、神様の素晴らしい導きに感謝すると同時に、クリスチャン パートーズのご支援に、あらためて感謝し、今後とも福音伝道の業に、ご一緒に邁進していきたいと願っております。ガーナでの働き人たちと家族の健康が守られますようにお祈りください。



木陰の小学校



山羊の世話をする少年

高橋めぐみ先生インドネシア再訪

5月2日から3週間、関西の教会姉妹2名とカリマンタンとバリへ行ってきました。豪雨で奥地へは行けず、バダットラマ村に中高生寮出身者の家庭を訪問し、彼らの今後の進路について話し合い、祈りました。その後、ATI神学校で教員・学生と交流、周辺の住人を訪問してからバリ島に飛び、バリ日本語集会で礼拝と交わりができました。その間、クリスチャン パートナーズの奨学生数人にも会うことができました。 高橋めぐみ

(高橋先生は4月から関西聖書学院でお働きになっています)

~~~~~

カリマンタンでは6月が学年末になります。クリスチャン パートナーズの奨学生も、卒業論文で多忙な日々を送っているとのこと。

キーハジャールは教育大学四年で卒業論文作成中。

その内容は《生徒のインドネシア語会話力における、ロールプレイ方法の影響—小学5年生の場合—》というのだそうです。それには、彼の出身村の小学生たちが普段使っている部族語と学校で習うインドネシア語との間で苦労しているという実情があるようです。論文作成が順調に進めば、今年中に卒業できるでしょう。(「通信」第96号3ページ参照)



アモイはガバンという所の教育大学の4年生で、同じく卒論作成中。英語教師を目指していて、卒論は英語で書かねばならず、悪戦苦闘とのこと。「生徒が名詞の使い方を間違える原因の分析」という内容だそうです。(「通信」第99号4ページ参照)

キー、アモイとガトットの3人が月5,500円の奨学金を受けている学生です。

「通信」第101号で紹介したドノが学ぶ看護学校は学費が高額ですが、大学院を卒業したダミの後として、宮澤理事が支援しています。米国バプテストの宣教師によって建てられた病院付属の学校で、患者に対する霊的ケアも学び、患者が望めばその人のために祈ることもあるそうです。他宗教の患者も多くいますが、彼の信仰が強められる機会となるでしょう。

高橋先生は半年ぶりにドノに再会され、「すっかり看護学生らしくなっていた」とのこと。勉強にはインターネットが必要ですが、ドノは友人から借りねばならず、夜中になるので寝不足で困っているそうです。彼の健康が守られ、希望どおりに前進できるよう祈りましょう。

私たちが支援している中学生10名の内、グロリア寮から通学している三人です。左からチチ、ユリア、アンドリカ・サワツ。将来の夢はそれぞれ、医師、婦人警官、教師とのこと。



グロリア寮



寮生たち

# 2017年 西カリマンタンSAC 宣教活動報告

イマヌ サロミ 牧師

主の平安を祈ります。支援者の皆様の奨学金支援とお祈りを、いつも感謝しております。里子たちは、今年も誕生日とクリスマスに贈り物をいただき、カードを受け取りました。今はクリスマス休暇を終えて、学校に戻ったところです。

西カリマンタンでの活動は発展しています。SAC支援金は、子どもたちに勉強する意欲を与えるばかりでなく、イエス様を知る機会を与えます。彼らは精神的に成長し、自分たちの生活の中で神の恵みを実感します。彼らは兄弟姉妹と共に、主の導きの内に成長し、将来のことを考えるようになります。

SAC「教育資金」によって上級学校へ行った子どもも、大学へ進学してSACを離れたものもいます。多くの子どもが教会の日曜学校に出席し、成長した子どもの中には教える側に回って奉仕する者もあり、聖歌隊で働く者もおります。彼らの奉仕活動は、両親や他の家族に主を知る機会を与えます。

この地方では、誕生日やクリスマスを祝う習慣はありませんでしたし、贈り物を交換することはありませんでした。支援者の方々の心遣いを、子どもたちは非常に感謝しています。

どうぞ、この地域での宣教の働きを、皆様の祈りのうちに覚えてください。あなたがたの支援で、ますます多くの魂を、主に導くことができるでしょう。皆様の上に主のお守りがありますように。2018年も喜びにあふれた年でありますように。



【理事会報告】第201回理事会は2018年03月19日(月)一ツ橋学士会館で開催。2018年01,02月度会計報告承認。高塚佳美氏が監事を承諾され、新会則確定。ホームページ改善について、石久保氏に代わり従事して下さる高須淳氏と電話による協議。「通信」102号には高橋宣教師を通じての奨学生の現状報告、SACの年次報告など。2018年度の予算については、6月が学期末で奨学生に変化が出ることを考慮して考える。

第202回理事会は2018年05月21日(月)一ツ橋学士会館で開催。2018年03,04月度会計報告承認。新会則を各理事に配布。ホームページ改善は、インターネットの活用には現状では困難な点が多く、協議を要することが分かった。「通信」102号の内容は、2017年度決算・2018年度予算、2017年SAC報告、2017年ガナ報告に、高橋宣教師からの奨学生現状報告を待つ。発行は7月末か8月。

第203回理事会は2018年7月23日(月)一ツ橋学士会館で開催。2018年05,06月度会計報告承認。2017年度決算・2018年度予算承認。ホームページ改善策継続協議。「通信」102号7月31日発行。第204回理事会は11月5日開催予定。

\*\*\*\*\*

(編集後記) 前例のない猛暑の日々、いかがお過ごしですか。お支えの内に2017年度が終了、支援を望む若人たちはますます多くなります。新年度もよろしくご協力ください。皆様の健康を祈ります。鳥海百合子